

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で暮らせられるよう、また、利用者との関係を築く為、信頼される施設が作れるように、日々サービス提供場面において理念に基づき取り組みを実践できている。	玄関に「挨拶・笑顔・掃除」の理念が掲示され、訪問者を迎えている。リビングで、入所者は和気あいあいとした雰囲気、行事に参加していた。	施設の運営の基本は、理念がしっかりしていること、それを職員全員が共有していることにあります。今後も実行されるようお願いいたします。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の年間を通しての多彩な行事に地域の方にも呼びかけ、交流を図っている。尚、現在は自治会や老人会への参加はしていない。	苑長が区長をしているので地域の行事には、積極的に参加している。地域の方にも、施設行事に参加して貰い、交流は深まっている。但し、地域には老人会は、ない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会や集会などの地域の人が集まる場所で、施設の紹介や介護保険の利用法の説明などを行っている。また、見学者には送迎サービスも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、運営推進会議の中で、前回の外部評価の開示を行った。入居者の生活状況を報告すると共に、運営推進委員の方の意見を参考にしている。	2か月に1回定期的に行われ、議事録も整備されており、議事内容も詳述されている。サービス向上のための討議が行われている。	運営推進会議は、重要ですので、内容の充実した会議運営をお願いします。

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市が主催する研修会には、積極的に参加している。また、地域包括センターの職員と相談や助言を求めたりしている。</p>	<p>地域包括支援センターの職員には、運営推進会議にも出席して貰い、アドバイスをいただくなど、連携を深めている。また地域包括センターに出向き、相談等を行なっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人全体で「ココロも自由な施設です」「身体拘束ゼロ宣言」の施設として職員一同理解し、拘束をしないケアを実施している。</p>	<p>ISO9001の規定に基づき、身体拘束ゼロ宣言を、法人として行っている。出入口の施錠を行わないことを基本に、拘束をしないケアに向けて努力している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての勉強会を行い、意識の向上に努めている。また、日常業務の中で虐待防止に努め、その思いを職員間で共有している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現時点では、希望者や活用を必要とする者がいない為、支援はしていない。</p>		

9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書により説明を行い、事業所の取り組みやケアの方針を納得して頂き、同意の捺印を得ている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の福祉サービス委員会で、苦情や要望などを受けている。また、家族や利用者が意見等を聞く為、アンケートを実施してその意見を反映している。	今回の調査での家族アンケートでは、「ご家族から見て、ご本人は今のサービスに満足していると思いますか」という質問にほとんどの人が「満足していると思う」と答えている。運営に関して入所者・家族の意見は反映されていると思う。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	寮母会議や必要に応じた会議・ミーティングの中で、日々、サービスに対する意見や提案に耳を傾け、働く意欲の向上に努め、職員の声を業務に反映させている。	法人での主任会議(週1回)には、理事長が出席、G・H内の寮母会議(月3回)等において、職員の意見を取り上げ、業務に反映させている。	職員あつての施設ですから、職員の意見に充分耳を傾けてください。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃のミーティングや会議での意見を聞いて、実践・評価を踏まえて楽しく働く事に喜びを持てるような取り組みをしている。年二回実施する、個人評価表により各職員の勤務上の把握を行っている。職場環境は充実している。		

13	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月の目標を上げ、目標に向け勉強会などを行っている。尚、外部研修への参加も行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域のグループホームや他施設等の見学の受け入れを行い、お互いに情報交換を行い、サービス向上に努めている。また、県内のグループホーム研修会にも参加している。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>生活歴、ライフスタイルの情報を共有し、常に話し合いの場を作っている。また、入居者からの相談にも耳を傾ける。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居される前には施設の見学を行ってもらい、風景などを見てもらっている。ご家族の不安や希望をよく話し合っている。</p>		

17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居者の希望時に入居できない場合は、担当ケアマネージャー、家族と一緒に話し合いを行い、他のサービスの利用等も支援している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の状況を把握して、常に介護される立場ではなく、一人ひとりの能力に合わせた支援の中で、喜びや生きがいに繋がる働きかけを行い、お互いが向上出来る関係を築いている。食事の盛り付け・洗濯・片付け・野菜作りが行える環境づくりを行い、一緒に支え合っている。</p>		
19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者の楽しみや生きがい対策に取り組みを計画し、家族・職員と一緒に本人を支えている。何事も、家族と密に連絡を取っている。</p>		
20	<p>8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>知人、友人、親族の方の面会も随時受け入れ、個人の居室で対応している。</p>	<p>毎月開催される「家族会」に出席される家族も多く、居室で、家族と談話される方が多いと聞きました。数寄屋作りの建物は、知人・友人の方も、馴染み易いので、気軽に来訪されるであろうと思う。</p>	

21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で、お互いの力を出し合い、一緒に共同する支援を行っている。また、隣接する託児所の園児と畑作りを行い、一緒に育てる喜びや楽しみを、利用者同士で励まし合い支えている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移ったお客様や、その家族にも今まで通りの言葉掛けを行い、困った時には相談に乗るなどの関係を継続している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家から使い慣れた生活用品や仏壇などを置いて、その人らしく暮らし続ける為の思いや希望を把握し、本人の気持ちを尊重している。	居室は、それぞれ馴染みのある生活用品に囲まれており、また、朝食の時間なども、本人の希望を尊重している。そこで、その人らしい生活が送れると思う。	入所者の満足度をいかに高めるか、業務での工夫をお願いします。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネジャーからの情報提供により、今までの生き方や暮らし方を尊重し、プライバシーに配慮しながらも、そのらしい生活支援をしている。また、本人とも話す機会を作っている。		

25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>朝・夕のミーティングの実施で情報を共有し、本人の「出来る事」、「わかる事」、を見出している。また、精神面、身体面での支援のポイントを確認している。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定例の家族会や面会の際に、問題点などを相談し、介護計画に反映している。また、月一回の支援内容の確認、プランの見直しも定期的に行っている。</p>	<p>毎月の家族会等で、介護上の問題点の相談や家族の希望を聴取し、月3回の寮母会議の中で、サービス内容を確認し、3か月毎のケアプラン見直し会議に反映している。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>実状やケアの中で気付いたことなどを記録し、職員間で共有している。</p>		

28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の希望により、病院受診や美容院等への外出支援を行っている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域ボランティアの方の力を借りながら、文化に触れ楽しめる機会を設けている。また、舞踊・本の読み聞かせ・押花教室等の実施、民生委員や老人会の見学も受け入れられている。</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医による健康診断を実施。また、入所時に協力医が家族の希望により変更。緊急時には、主治医に連絡し速やかに対応でき、家族の希望する医療が適切に受けられている。</p>	<p>”健康面・医療面・安全面について心配な点はないか”という質問の家族アンケートで、ほとんどの人が「心配ない、あまりない」と回答しています。</p>	<p>優れた主治医に恵まれますので、その点を入所者・家族によく理解して貰って下さい。</p>
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>入居者の身体の状況を相談しながら、一人ひとりの健康管理や医療支援を行っている。</p>		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>担当看護師からの、情報交換や相談に努めている。尚、入院の場合は、短時間で退院出来るように話し合い、必要な支援を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族の意向を聞き、主治医に伝えている。ターミナルは実施していない。</p>	<p>G・Hでは終末期対応は、体制上無理があるので、その場合特養や医療機関への移動が必要となる。家族との話し合いが行われている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>I S O手順書マニュアルに沿って行っている。定期的に訓練は行っていないが、勉強会を行い職員全員の意識を高めている。また、急変時には適切に対応している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年間計画で避難訓練を月に一回実施している。また、地域の方には法人が避難場所になっている事もあり、協力は保たれるものと考えられる。</p>	<p>月1回の防災訓練の他、無断離設の捜索訓練年2回、消防署指導の総合訓練（地元も参加）年1回実施している。</p>	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は「さん」と苗字で呼び、ニックネームなどでは呼んでいない。また、入浴や排泄時の不安や羞恥心、プライバシーに配慮すると共に、記録や情報についても厳密に保管されている。 事業所のアピールで「私たちは、人間としての尊厳を大切にしながら、ケアの充実を目指し、普通の暮らしが続けられるように支援します。」とあります。その考えは、入浴や排泄時のプライバシーを守る中で実現されると思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いをくみ取り、自己決定出来るように支援している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日を本人の要望が叶えられる状況にあり、一人ひとりの好きな事、興味のある事を、職員側が把握するよう努め、本人のペースに合わせた、その人らしい暮らしが出来ている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい本人の好みや、意向について支援できている。

40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週一回の選択食を行い、メニューが選べ楽しめるよう工夫している。入居者一人ひとりの希望や好みも考慮し、盛り付けや片付けを一緒に行っている。法人全体で各部署が合同で、月に一回給食会議を行い、要望や意見などを聞いている。また、行事の中にカフェ望やホームメイド等を行って、自分達でおやつを作った	月1回の法人の給食会議で、G・Hの入所者の嗜好を反映した献立作りをと要請している。行事で、入所者が参加し、職員と一緒におやつ作りなどを行っている。	入所者と職員と一緒に食事を作り、一緒に食事するのが、G・Hの特徴ですので、その機会を増やすようお願いいたします。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーについては栄養士が管理を行っている。食事・水分摂取量は、詳細に記録している。また、一人ひとりの利用者の食べ物・飲み物の好き嫌いなどの把握も出来ている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る場合は、声掛けにて促し、出来ない場合は毎食後の歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい介助にて行う。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作り、確認できる入居者の方はチェックしている。排泄パターンや仕草を把握して、早めに声掛けやトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表の活用により、オムツをしなないケアを行っている。順調に実施されている。	

44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個人別に排泄リズムを把握し、飲食物の工夫や運動に取り組んでいる。また、リハビリ体操を毎日行い、水分補給を多く摂るよう努めている。</p>		
45	<p>17 ○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>裸になる事の不安や羞恥心を考慮し、原則個人入浴を行っている。概ね、週三回以上行い、個人に合わせた温度や時間にも工夫している。行事が重なった場合、午前入浴や、次の日に入浴している。</p>	<p>週3回の入浴、そしてヒノキの浴槽で、香りが楽しめる入浴となっている。プライバシー尊重の立場から、個人浴を原則としている。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>運動後、また食後の安静時の声掛けを行い、心身を休める場を作るようにしている。夜間、寝つけない場合は話しをしたり、お茶を飲んで頂いたりして対応している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方箋のチェックを行い、服薬の変化を確認している。</p>		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりに合わせ、テーブル拭き・お盆拭き・洗濯物たたみ・畑仕事等それぞれ行っている。また、レクリエーション活動にも工夫し、様々な場面で楽しんで頂いている。</p>		
49	<p>18 ○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩や併設施設への交流の為の外出機会を多く設け、戸外に出かけられる計画を実行しているが、馴染みの店や希望の所へは日常的に出かけていない。</p>	<p>併設施設のコスモスとは、交流が活発に行われており、その際を活用して、外出の機会を増やしている。年に1~2回は、ふるさと祭りや、菊花展（トキハ）等にドライブ外出を行う。</p>	<p>職員の体制上外出行事は組みにくいと思いますが、家族の協力もいただき、増やす努力をお願いします</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の管理は現在、職員が行っている。現金の預かりは行っていない。必要な現金は、家族から直接集金している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>現在は自分で手紙を書いたり、電話する方はいない。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の草花を生けたりし、家庭的な雰囲気の中で季節を感じて頂く工夫をしている。また、浴室等の共有の場所は安心して心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	<p>調査の時、リビングルームには、「陽」と同様に、豪華なお雛様が飾られてあった。「陽」と「同様に、常に季節感に溢れた共用空間作りに配慮されていることを感じた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>家庭談話室や畳の部屋・キッチンカウンターなど、生活リズムに合わせた環境となっている。和室には掘りコタツや用意されている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が居心地よく過ごせる環境を整え、懐かしい馴染みの置物や、家族の写真を飾っている。</p>	<p>布団等は持ち込みとなっており、その他馴染みの家具や仏壇等が飾られており、入所者が自分らしい生活ができるように配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室には個人の表札を掛けて混乱うい防いでいる。内部は個人の生活能力に合わせて家具等の配置を考え、安全面に注意している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>	○	<p>1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	○	<p>1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)</p>	○	<p>1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	○	<p>1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	○	<p>1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>